

No. 256

令和7年7月17日

埼玉県公立小学校 校長会速報

埼玉県公立小学校校長会事務局
〒336-0021
さいたま市南区
別所 1-2-8 インテル U403
TEL 048 (711) 9851
発行人 会長 福島みどり
編集人 広報部長 川端 浩司

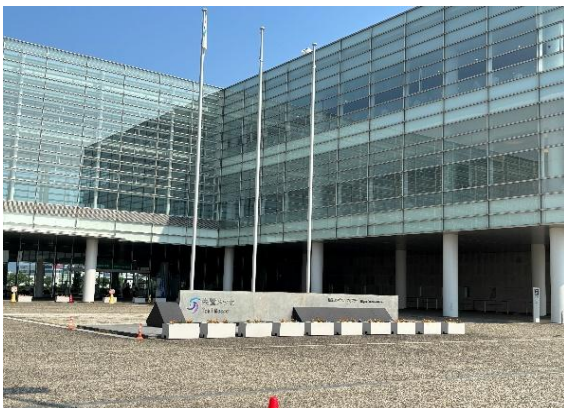
第77回 関東甲信越地区小学校長研究協議会新潟大会

大会主題 自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る
日本人の育成を目指す小学校教育の推進

副主題 未来を拓く新たな価値を創造し、
豊かな社会をともにつくる子どもを育む学校経営

期日 令和7年6月19日（木）・20日（金）

会場 朱鷺メッセ、ホテル日航新潟、万代島ビル、ANA クラウンプラザホテル新潟



〔大会趣旨概要〕

〈報告者〉新座市立大和田小 戸高 正弘

大会主題「自ら未来を拓き ともに生きる
豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小
学校教育の推進」

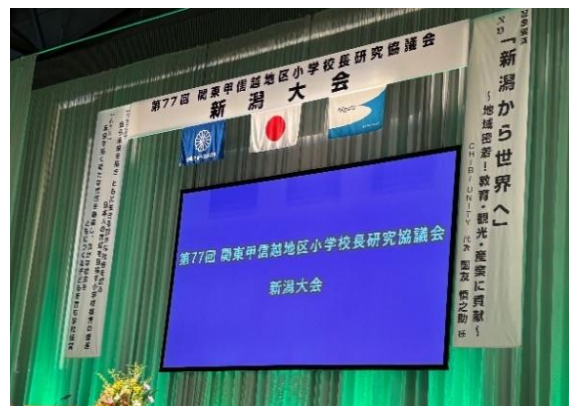
副主題「未来を拓く新たな価値を創造し、
豊かな社会をともにつくる子どもを育む学校
経営」

これからの社会は、デジタル・トランスフ
ォーメーションによる社会構造の変化や多様
化、世界的な平和や地球環境問題など、新た
な時代への対応が急務である。

学校教育においては、「全ての子どもたち
の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協
働的な学びの実現」が求められている。そし

て、子どもたちの個性や興味・関心を最大限
に発揮させ、自律性や主体性、創造力、課題
解決力等を伸ばす学びへの大きな転換を図る
ことが必要とされている。

予測困難な社会の変化に主体的に関わり、
感性を豊かに働かせながら、自分なりに試行
錯誤したり、多様な他者と協働したりして、
未来を拓く新たな価値を創造すること。そし
て、持続可能なより良い社会と幸福な人生の
実現など、豊かな社会を多様な人々とともに
つくり、歩むこと。これらを実現できる資質・
能力を育成する上では、家庭・地域との連携・



協働を深め、連携・分担による学校マネジメ
ントを実現することや、社会に開かれた教育
過程の実現と検証を図り、効果的なカリキュ

ラム・マネジメントを確立することが重要となる。

本大会では、関東甲信越各都県で先進的に取り組んでいる実践の意義や成果を共有し、大会主題の更なる追究を目指すとともに、校長が果たすべき役割や発揮すべき指導性について究明する。



**関東甲信越地区校長連絡協議会
会長 田沢 憲 あいさつ**



新潟大会実行委員長 藤本 高雄 あいさつ

◇大会日程等

〈報告者〉蓮田市立蓮田中央小 鷺林 潤壺
全体会は、朱鷺メッセで、分散会は朱鷺メッセの他、ホテル日航新潟、万代島ビル、ANA クラウンプラザホテル新潟で行われた。参加者は963名、本県からは80名の参加で大会が行われた。初日は開会式及び全体会、2日目は分科会であった。12分科会（20分散会）に分かれ、小グループによるテーマに沿った協議により提言の形でまとめを発表した。



〈本県の代表の提案・司会〉

○第7分散会《教育課程・豊かな人間性》

提案…荒川 統（嵐山・菅谷小）

司会…榎本 敦司（滑川・月の輪小）

○第16分散会《教育課題・自立と共生》

提案…古橋 立哉（越谷・平方小）

司会…北原 広泰（越谷・弥栄小）

◇記念講演

○講師 CHIBI UNITY 代表 国友 慎之助 氏

国友氏の記念講演では、CHIBI UNITY の活動を通じて「新潟から世界へ」をテーマに、地域密着型の教育と観光、産業への貢献が語られた。ダンスを核に子どもたちの人間形成を育み、世界大会での実績も披露。特に「教育×ダンス」では、年間300校訪問やオンライン教材開発で、デジタル・音楽・英語教育との融合を提唱した。また、観光振興や医療、農業分野への応用も視野に入れ、日本の踊り文化を世界に発信することで、多世代交流と人材育成、地域活性化を目指す。参加者とのレクチャータイム（「アーパツアパツ」のリズムに合わせたダンス体験）も盛り上がった。



〔第1分散会〕

これからの社会を担う子どもを育む創造的な学校
経営ビジョンの策定とその推進

〈報告者〉春日部市立豊野小 飯塚 耕治

研究発表概要

1 栃木 栃木市立国府北小 梅山 好昭

市校長会として4つの視点で実践等を情報交換し、各校の学校経営に生かした。具体的には授業づくりの要点を示したリーフレットづくり、Teamsを活用した小・小連携授業、総合的な学習の時間の「ふるさと学習」、異学年交流・学校保健委員会の充実などの事例を共有した。

2 新潟 上越市立安塚小 松屋 徹

小規模校（児童数33名）としてのデメリットを克服し、メリットを活かすことで活力ある学校づくりを目指した。上教大と連携したアドラー心理学に基づくクラス会議の他、定期的なPDCAサイクル及び短期的なOODA（ウーダ）ループの思考を取り入れている。

〔第2分散会〕

次代を担う子どもたちを育成するための実効性ある学校評価の工夫

〈報告者〉さいたま市立太田小 田波 巨士

研究発表概要

1 群馬 沼田市立利根小 吉田 広幸

学校評価を組織的・継続的な経営改善のツールとして活用するために、保護者・地域住民など評価者とイメージを共有しやすいグラウンドデザインの見直しを図った。併せて、様々な教育活動の情報発信に努め、特色ある学校づくりを推進することが重要である。

2 新潟 村上市立朝日みどり小 南波 裕

カリキュラム・マネジメントを充実させるためには、学校評価の結果を分析し、自校な

らではの特色ある教育課程の編成が重要である。地域や保護者との連携・協働を通して、課題解決に取り組むことが次代を担う子どもたちを育成することにつながる。

〔第3分散会〕

学校経営ビジョンの実現を図る効果的な組織マネジメントの工夫

〈報告者〉八潮市立八幡小 小久江 桂子

研究発表概要

1 東京 渋谷区立加計塚小 平野 真由美

校長が新たな取組に挑戦する際には、校長会の横のつながりを大切にし、区の施策を活用しながら、ボトムアップによる推進を図ることが重要である。また、地域や保護者を学校の教育活動に参画するように仕掛け、教育活動へのより一層の理解を図る必要がある。

2 新潟 柏崎市立二田小 木村 貴之

校長には、地域の強みを把握し学校に生かすコーディネーターとしての役割が必要不可欠である。強みを学校経営ビジョンに反映するとともに、地域の願いや思いを教職員と共有する。また、校内体制を工夫し、継続的且つ効果的に推進していく必要がある。

〔第4分散会〕

教育の質的向上を具現化する働き方改革の推進と業務の改善の工夫

〈報告者〉伊奈町立南小 今田 利信

研究発表概要

1 山梨 忍野村立忍野小 藤巻 桂吾

働き方改革の目的が、子どもと向き合える時間を確保すること、教師一人一人が持っている能力を高め、発揮できる環境を整えるとの方向に変わったため、校長として、①当事者意識をもったボトムアップ、②コミュニケーションを大事にした取組を行っている。

2 新潟 五泉市立五泉南小 若狭 陽一

校時表（日課表）を大きく見直し、放課後の時間を生み出した。「学校運営上大切にされてきた取組」として、「いじめ見逃しゼロシート」で情報共有し、対策委員会開催の時間の削減を図った。また、「ノート研修」を行い授業研究会の負担軽減を行った。

〔第5分散会〕

自ら未来を拓いていくための資質・能力を育む教育課程の工夫

〈報告者〉桶川市立桶川小 内田 則子

研究発表概要

1 東京 小金井市立本町小 佐藤 歩

小金井市立学校教育課程の方向性として「①授業変革」「②子どもの権利の尊重」「③地域連携」について「三つの本気」として市内全校で取り組んでいる。特に、単元内自由進度学習の実践を通して、自己調整しながら児童が主体的に学ぶ授業変革を推進している。

2 新潟 糸魚川市立大野小 齋藤 雅彦

「ひとみかがやく日本一の子ども」をスローガンに、家庭、地域、園・学校の連携・協働による、0歳から18歳までの切れ目のない支援を提供する「子ども一貫教育」を推進している。中学校区校長会を通じて特色を共有することで一体感のある教育活動につながった。

〔第6分散会〕

豊かな発想力や創造性を育む教育課程の工夫

〈報告者〉熊谷市立熊谷東小 吉野 富夫

研究発表概要

1 長野 松本市立安曇小 降旗 敏昭

子どもの「やってみたい」、職員の意識改革を進めた学校づくりを①やってみたいが実践できる②自分らしい学びを進める③「ふるさ

と学習」を探究学習で実践している。子どもの「やってみたい」職員の「さあ、やってみよう」が表れた学校づくりが創造性の原動力であった。

2 新潟 長岡市立栃尾南小 本多 真人

知性は、知識や経験を基盤に他と協働して最適解を見つける中で育つという考えのもと、指導計画の整備での手立てや工夫を校長会で共有している。①仲間と考え合う場面②体験活動で実感を伴った気付き③メタ認知的モニタリング④地域と連携・協働の実践であった。

〔第7分散会〕

ともに生きる社会をつくる人権教育の推進

〈報告者〉さいたま市立馬宮西小 坂口 裕範

研究発表概要

1 埼玉 嵐山町立菅谷小 荒川 統

人権への理解を深め、交流が広がる活動の充実をねらい、まずは全町の教職員を対象にした研修等で教職員の人権意識高揚を図った。同時に、県の「人権感覚育成プログラム」も活用しながら、学習活動や学校行事などの様々な取組を通して児童の人権感覚を育成した。

2 新潟 妙高市立新井南小 丸山 文雄

市内全校で、「妙高型イエナプラン教育」に取り組み、全ての子どもが「自立した学習者」になれるような伴走型支援を目指している。この視点で人権教育も推進しており、教科指導・生徒指導・学級経営の見直しを図ることで、自他の人権を守る実践的行動力を高めた。

〔第8分散会〕

豊かな心を育む道德教育の推進

〈報告者〉白岡市立菁莪小 小林 大輔

研究発表概要

1 千葉 千葉市立園生小 岡田 直美

道徳的实践に繋がる教育課程の編成・実施・評価・改善に取り組んだ。各学年の重点内容項目を設定し、計画的に道徳科と全教育活動との関連を図ったことで、児童の道徳性が養われ、道徳的实践に繋がった。6年間を見通した計画的、発展的な指導が課題である。

2 新潟 佐渡市立羽茂小 小池 貴弘

他者とのかかわりの場を活性化させ、豊かな心の育成を目指した教育課程の創造を追究した。教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての道徳科の役割・位置付けの明確化や、地域連携・協働活動の推進により、自己肯定感や自己有用感を育むことができた。

〔第9分散会〕

教職員の資質・能力の向上を目指した校内研究・研修の充実

〈報告者〉熊谷市立妻沼西小 大谷 裕紀

研究発表概要

1 神奈川 横須賀市立森崎小 梶川 友恵

横須賀市では、経験年数に偏りが大きく人材育成が課題、3つの学校を紹介①既存の組織を生かしたボトムアップ型の業務改善から授業改善へつながる組織づくり②主体的参画意識の醸成に基づく授業力の向上③学校運営PDCAサイクルの充実による授業力の向上。

2 新潟 小千谷市立和泉小 川崎 一誠

「チーム学校」としての同僚性を高め能力を発揮することができるように校長が職員と目標を共有し、ともに未来について考えるために「GROW モデル」を活用した面談を行う。そうすることで目指す姿をイメージしながら意見交換をすることが増えた。

〔第10分散会〕

「チーム学校」の運営意識を高める研究・研修体制の工夫

〈報告者〉所沢市立中央小 御菩薩池 好行

研究発表概要

1 茨城 水戸市立見川小 関口 一治

研究・研修体制を多角的・包括的に評価できる客観的指標が作成され、適切に構築する方法が明確になっている。また、「チーム学校」の運営意識を測定できる客観的指標が作成され、学校の状態を把握できるようになっている。

2 新潟 新潟市立味方小 佐々木 啓介

職員の協働性と学校運営への参画意識の向上について、組織や環境を整備することで、職員の協働意識や教育活動への有用感が高まっている。また、教職員としての資質向上について、役割や目標が明確になったことで、職員は資質の向上を実感している。

〔第11分散会〕

組織の一員として人間性や指導力を高めることのできる若手人材の育成

〈報告者〉朝霞市立朝霞第三小 松本 欣巳

研究発表概要

1 東京 国立市立国立第一小 中村 理明

若手教職員が増える中、若手育成と学校全体の組織力向上を目指して取り組んだ。資質・能力・ニーズに応じたOJT、メンター制度活用、ミドルリーダー育成により、学校全体で育て、育つという意識が生まれた。ただ、ミドルリーダーの若年齢化と更なる業務改善が課題である。

2 新潟 加茂市立下条小 中川 純子

小規模校への初任者配置が増加し、職場での知識や指導スキルの承継が困難になってい

る。初任校3年間に焦点を当て、全校体制での若手が学ぶ機会の確保、責任ある業務経験、市教委と連携したメンタリング強化に取り組んだ。改善と取組の意義の共通理解、教職員の一体感が重要となってくる。

〔第12分散会〕

これからの学校運営を担うミドルリーダー・管理職の育成

〈報告者〉松伏町立松伏小 竹森 努

研究発表概要

1 長野 上田市立中塩田小 宮澤 雅法

「つながる」「深める」を意識し、特別支援・不登校・生徒指導の特別委員会において、対策の見通しをもって臨ませたことにより、各委員長のコミュニケーション力が高まった。また、地域ボランティア募集のやり方を教頭に工夫させ発信に力を入れたことにより、主体的に進むようになった。

2 新潟 胎内市立胎内小 山沢 正仁

学校の数値目標を明らかにした学校評価を活用して、ミドルリーダーを育てる実践を行った。若手教員に主任を任せ、「わくわく企画班」として、校長とともに話し合いによって学校運営の課題を能動的に解決する組織をつくった。ミドルリーダーとしての自覚と自信が芽生えてきた。

〔第13分散会〕

自ら判断・行動できる子どもの育成及び地域・関係機関との連携・協働を図る安全・防災教育の工夫

〈報告者〉秩父市立高篠小 江本 泰幸

研究発表概要

1 東京 墨田区立業平小 伊藤 康次

安全教育の全体教育の見直しや共通理解を通して、教職員の学校安全に関する意識の高揚が

図られた。また、保護者、地域、関係諸機関と連携して実際の災害を想定した活動を行い、子どもが自ら考え、危険を予測する力や危険を回避する力を身に付けた。

2 新潟 十日町市立下条小 小島 美和子

小中一貫モデル校（併設型）の特徴を活かした小中合同の避難訓練を行い、非常時の下校班体制を整えている。中学校区のこども園、小学校、中学校、保護者、地区振興会、公民館で構成された下条エコメディア協議会で、地区をあげての健全育成運動を行っている。

〔第14分散会〕

組織的にいじめや不登校等に対応できる校内体制の整備

〈報告者〉鴻巣市立鴻巣東小 伊藤 誠

研究発表概要

1 茨城 八千代町立下結城小 横関 正俊

町校長会の横の連携を生かしながら、「課題未然防止教育」として特別活動や人権教育等を通して安心・安全な居場所としての学級づくりを行ったり、「課題早期発見対応」としてQ-U調査や生活アンケート等を通して子どものSOSを見逃さない取組をしたりしている。

2 新潟 見附市立新潟小 本間 貴子

学校が「誰もが安心して過ごせる場所」となるために、学校の風土を「見える化」することに取り組んだ。具体的には学校評価を活用して学校の支持的風土の把握に努めたり、Q-U等のアンケートツールにより教職員の「認識の共有」と「行動の一元化」を図ったりした。

〔第15分散会〕

健全育成のための学校・家庭・地域・関係機関の連携

〈報告者〉新座市立栄小学校 浅田 敦子

研究発表概要

1 群馬 東吾妻町立坂上小 小林 晃男

望ましい生活習慣の確立、メディアコントロール、いじめ対策、不登校対策における地域社会や家庭、関係機関との連携について、校長の役割を明らかにした。また、対応方針の共有やリーダーシップの必要性、多様化する家庭状況への組織的な対応を提言した。

2 新潟 阿賀野市立水原小 樋口 憲哉

水原甚句の実施、地域連携活動、メディアコントロールの取組等、特色ある教育活動を実践し、それを支える組織づくりを大切にしたい。また、職員への丁寧な説明の必要性や地域へ連携の成果を価値づけして伝えることで学校への信頼が増すことを提言した。

〔第16分散会〕

自立と共生社会の実現に向け、一人一人の教育的ニーズに応える教育環境の整備及び特別支援教育の推進

〈報告者〉草加市立瀬崎小 柳田 加代

研究発表概要

1 埼玉 越谷市立平方小 古橋 立哉

教職員が児童理解を図りながら多様性を受容し、児童の苦手さに歩み寄る柔軟な対応を行うことで、保護者の信頼や児童の利益につなげている。また、チームで児童支援の検討を行い、児童を中心に保護者・教職員が一体となった学校づくりを推進している。

2 新潟 三条市立長沢小 池田 岳康

適時性と実効性のある支援・環境整備によって、成長とともに変容する教育的ニーズに対応できる支援体制を構築する。また、児童同士がともに成長する風土の醸成によって、

共生に向けた相互理解を促す。校長の強いリーダーシップや専門的知識に基づく指導・助言で、自立と社会参加を支える学校づくりを進めている。

〔第17分散会〕

情報社会をよりよく生きる子どもを育む情報教育の推進

〈報告者〉美里町立児玉小 高田 真清

研究発表概要

1 栃木 壬生町立壬生東小 福田 尊史

タブレットを活用した「新しい学び」を推進していくためには、学校間格差、教員間格差をなくし、先進校（リーディングDX校）を設け、そこで得られた効果的な取組を校長がリーダーシップを発揮して、自校に取り入れていくことが重要である。

2 新潟 魚沼市立宇賀地小 永井 茂

教職員のICT活用指導力を育成するためにICT支援員と教員の連携促進が大切である。管理職、軸となる教員が連携を図ることで、授業改善等に寄与できるようになった。さらにICT支援員の業務内容を共通理解することで、支援場面拡充を図ることができた。

〔第18分散会〕

地域・関係機関と連携し、豊かな感受性と創造性を養い持続可能な社会の創り手を育む環境教育の推進

〈報告者〉川越市立大東東小 山本 敦子

研究発表概要

1 山梨 南アルプス市立楡形西小 清水 ゆみ

各小学校の環境教育に対する教職員の意識調査から現状把握をし、環境教育を学校経営方針に位置付けた。また、各小学校の全体計画を持ち寄り、内容比較をして見直しを行っ

た。特に地域資源（エコパ伊奈ヶ湖）の活用を積極的に行う環境教育を推進した。

2 新潟 燕市立小池小 亀山 正

小中が連携し、学校が地域・関係機関とともに考え、クリーン活動をはじめとする環境に関する様々な活動に取り組んできた。コミュニティ・スクールや地域コーディネーター等との連携により、子どもたちと地域が繋がり子どもたちが地域の環境への愛着を深めた。

〔第19分散会〕

多様な文化を認め合い、主体的にコミュニケーションを楽しむ子どもを育む国際理解教育の推進

〈報告者〉久喜市立本町小 伊藤 あゆみ

研究発表概要

1 千葉 松戸市立馬橋小 中澤 智章

「多様性・発信力・関わり」を柱に、教育課程特例校「言語活用科」を活用して、NIEを用いた児童の主体性を引き出す学びのカリキュラムを編成し、「グローバルスタンダードな話法の活用」で論理的思考力の向上を図る。国際理解教育に令和の日本型教育を見出している。

2 新潟 南魚沼市立蕨神小 朝井 宜人

「高等教育機関を活用した異文化理解特区」及び、教育課程特例校「国際科」を活用し、国際大学の留学生との交流を通して、国際感覚を養い、多様な文化や考え方を認め合える児童を育成している。校長会が市と連携し、「国際化」充実に向け調整・協議を行っている。

〔第20分散会〕

コミュニティ・スクールやカリキュラム・マネジメントを生かした家庭・地域等との連携・協働の推進、異校種間の接続

〈報告者〉寄居町立寄居小 富田 陽一

研究発表概要

1 神奈川 相模原市立淵野辺東小 佐藤 俊巳
家庭・地域との連携の意義や方針、取組状況や効果などの情報を学校から積極的に発信するようにしている。校長は組織的ビジョンの下、市の施策や地域資源や連携できる機関等の情報を得て、社会に開かれた教育課程の具現化を図るマネジメントを行うことが重要である。

2 新潟 新発田市立猿橋小 磯部 裕之

地域・保護者の支えや協力により安全で効果的な教育活動が行われていることへの関心や感謝の思いを児童や教職員に持たせる工夫を行っている。また、これまでの地域・保護者との連携の在り方を見直し、持続可能な連携を目指して学校運営を進めている。

（速報担当：川端・加賀谷・篠崎・菊地・山本・
関根・麦倉・村木・阿久津）